

学校法人 洛和学園

洛和会京都厚生学校

2022 年度募集 看護学科 試験問題

国語総合（現代文）

数学Ⅰ（数と式）

解答はついておりません

※2023 年度募集については、学生募集要項をご確認ください。

受験番号	氏名
------	----

※ 字數制限のある問題については、句読点等も一字に教える。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

住空間をきれいにするには、できるだけ空間からものをなくすことが肝要ではないだろうか。ものを所有することが豊かであると、僕らはいつの間にか考えるようになった。

高度成長の頃の三種の神器は、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、その次は、自動車とルームクーラーとカラーテレビ。戦後の飢餓状態を経た日本人は、いつしか、ものを率先して所有することで、豊かさや充足感を噛み締めるようになっていたのかも知れない。しかし、考えてみると、<sup>①</sup>快適さとは、溢れかえるほどのものに囲まれていることではない。むしろ、ものを最小限に始末した方が快適なのである。何も無いという簡潔こそ、高い精神性や豊かなイマジネーションを育む<sup>②</sup>オンシヨウであると、日本人はその歴史を通して、達観したはずである。

慈照寺の同仁齋にしても、桂の離宮にしても、空っぽだから清々しいのであって、<sup>③</sup>ごちゃごちゃとザツカやら用度品やらで溢れているとしたなら、目も当てられない。洗練を経た居住空間は、簡素にしつらえられ、実際にこの空間に居る時も、ものを少なくすっきりと用いていたはずである。用のないものは、どんなに立派でも蔵や納戸に収納し、実際に使う時だけ取り出してくる。それが、<sup>④</sup>日本的な暮らしの作法であったはずだ。

しかしながら、今の日本の人々の住宅は、仮に天井をはがして俯瞰するならば、<sup>⑤</sup>どこの世帯もおおむね夥しいもので溢れかえっているのではないかと想像される。率先して所有へと突き進んだ結果である。<sup>⑥</sup>かつて腹へこに泣かされた欲深ウサギは両方の手にビスクットを持っていないと不安なのである。しかし冷静に判断するなら、両方の手に何も持っていない方が、生きていく上では便利である。両手が自由なら、それを振って挨拶もできるし、時には花を活けることもできよう。両手がビスクットでいつも塞がれていては、そういうわけにもいかない。

僕らはいつしか、<sup>⑦</sup>もので溢れる日本というものを、度を超えて許容してしまっただかもしれない。世界第二位であつたGDPを、目に見えない誇りとして頭の中に装着してしまつた結果か、あるいは、戦後の物資の乏しい時代に経験したものへの渴望がどこかで幸福を測る感覚の目盛りを狂わせてしまつたのかもしれない。秋葉原にしてもブランドショップにしても、過剰なる製品供給の情景は、ものへの切実な渴望をひとたび経験した目で見るならば、確かに頼もしい熱いに見えるだろう。だから、いつの間にか日本人はものを過剰に買い込み、その異常なる量に鈍感になつてしまつた。

しかし、そろそろ僕らはものを捨てなくては<sup>⑧</sup>いけない。<sup>⑨</sup>捨てることのみを「もつたない」と考えてはいけない。捨てられるものの<sup>⑩</sup>風情に感情移入して「もつたない」と感じる心持ちにはもちろん共感できる。しかし膨大な無駄を排出した結果の、廃棄の局面でのみ機能させるのだとしたら、その「もつたない」はやや鈍感に過ぎるのかもしれない。廃棄する時は遅いのだ。もしそういう心情を働かせるなら、まずは何かを大量に生産する時に感じた方がいいし、さもないとそれを購入する時に考えた方がいい。もつたないのは、捨てることではなく、廃棄を運命づけられた不毛なる生産が意図され、次々と実行に移されることではないか。

だから、大量生産という状況についてもう少し批評的になつた方がいい。無闇に生産量を誇つてはいけないのだ。大量生産・大量消費を加速させてきたのは、企業のエゴイスタイックな成長意欲だけではない。所有の果てを想像できない消費者のイマジネーションの脆さもそれに<sup>⑪</sup>加担している。ものは売れてもいいが、それは世界を心地よくしていくことが前提であり、人はそのためにものを欲するのが自然である。さして必要でもないものを溜め込むことは決して快適ではないし心地よくもない。

無駄なものを捨てて暮らしを簡潔にするということは、家具や調度、生活用具を味わうための背景をつくるということである。

白木のカウンターに敷かれた一枚の白い紙や、漆の盆の上にことりと置かれた青磁の小鉢、塗り椀の蓋を開けた瞬間に香りたつ出し汁のにおいに、ああこの国に生まれてよかったと思う刹那がある。そんな高踏な緊張など日々の暮らしに持ち込

みたくはないと言われるかもしれない。<sup>④</sup> 緊張ではなくゆるみや開放感こそ、心地よさに繋がるのだという考え方も当然あるだろう。家は休息の場でもあるのだ。しかし、だらしなさへの無制限の許容がリラクゼーションにつながるという考えは、ある種の墮落をはらってはいまいか。ものを用いる時に、そこに潜在する美を発揮させられる空間や背景がわずかにあるだけで、暮らしの喜びは必ず生まれてくる。そこに人は充足を実感してきたはずである。

<sup>①</sup> 伝統的な工芸品を活性化するために、様々な試みが講じられている。たとえば、現在の生活様式にあったデザインを導入であるとか、新しい使い方の提案とかである。自分もそんな活動に加わったこともある。そういう時に痛切に思うのは、漆器にしても陶磁器にしても、問題の本質はいかに魅力的なものを生み出すかではなく、それらを魅力的に味わう暮らしをいかに再興できるかである。漆器が売れないのは漆器の人氣が失われたためではない。今日でも素晴らしい漆器を見れば人々は感動する。しかし、それを味わい楽しむ暮らしの余白がどんどんと失われているのである。

だから僕たちは今、未来に向けて住まいのかたちを変えていかななくてはならない。育つものはかたちを変える。「家」も同様である。

② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄

問七 —— 線部⑥「緊張ではなくゆるみや開放感こそ、心地よさに繋がるのだという考え方も当然あるだろう。」について、次の問いに答えよ。

緊張ではなくゆるみや開放感こそ、心地よさに繋がるのだという考え方も当然あるだろう。

(1) —— 線部 A、D のうち、品詞が異なるものを一つ選び、記号で答えよ。また、その品詞名を次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア 名詞      イ 動詞      ウ 形容詞      エ 副詞      オ 連体詞

(2) —— 線部が修飾している言葉を一文節で答えよ。

問八 —— 線部⑦「伝統的な工芸品を活性化するために、様々な試みが講じられている」とあるが、伝統的な工芸品が売れないのはなぜだと筆者は考えているか。本文中の言葉を使って三十文字以内で答えよ。

問九 —— 線部⑧「何もないテーブルの上に箸置きを配する。そこに箸がびしりと決まったら、暮らしはすでに豊かなのである」と言えるのはなぜか。「くから。」に続くように本文中から五十六文字で探し、はじめと終わりの五文字を抜き出せ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ぼくたち五人のいとは、毎年夏休みの二週間を、海辺にある章くんの別荘に集まってすごしていた。別荘の持ち主であり、最年長者の章くんに、常に気がつかわなくてはならないことに疑問を感じ始めていた時に、章くんの口から、自分がここに来るのは今年が最後であることが告げられた。

ぼくらの夏が今年で終わる。完全に終わる。

そしてもう二度と、始まらない。

小野寺さんの料理をダイニングに運ぶあいだも、その皿をテーブルに並べるあいだも、ぼくらは一様にだまりがちで、動きもどろつきもなかった。あの器用な智明が花瓶を倒した。ナスはみそ汁の椀にごはんをよそった。ぼくはみんなで食べるニラ炒めの皿にソースをかけてしまった。めちやくちやだ。

ぼくも、智明も、ナスも。だれもが似たようなショックと、そして似たような後ろめたさを感じていたのだと思う。

そんなぼくらに比べたら、かえってじやがまるのほうが冷静だった。

十二時を少しまわったころ、章くんと一緒にもとつて来たじやがまるは、赤い目をしながらも精一杯、中学年としての威厳を示してくれた。

「さつきはちよつと、おとなげなかったよ」

ぼつりと言って、テーブルの椅子に腰かける。

「あのこと、聞いた？」

ナスが尋ねると、

「うん。でも、ぼく、もういいんだ」

両足を A 掻きぶりながら、じやがまるはもう何もかもあきらめきったような口ぶりだ、

「でもさ、そういうことだったら、もっと早く言ってくれればよかったのに」

それにはぼくも同感だった。

章くんはどうしてだまっていたんだろう。

こんな大事なことを、なんだって今まで隠してたんだ。

ぼくは問いかけるように章くんを見た。章くんはぼくがソースをかけたニラ炒めを噛みしめているところだった。ぼくの視線に気づくと、たちまちかわしい目つきになって、

「あんな、恭」

ぼくは B 身を引いた。けれど章くんの口から出てきたのは、ぼくの恐れていたソースの話題しかなかった。

「午後、また競泳するぞ」

みんなで勝負する競泳なのに、章くんはぼくだけを見つめて、言ったんだ。<sup>①</sup>

「これが最後の勝負だ。がんばれよ」

天気の良い日には、空と海のあいだに佐渡島が見える。今日みたいな晴天の日には粟島も見える。

水平線に浮かぶその二つの島にむかって、ぼくらは平泳ぎでゆつくりと進んでいった。

最後の競泳。

一キロほど沖へ出ると、そこをスタートラインに、今度はクロールでの本勝負だ。

スタートの直前、章くんに「行くぞ」と頭をはたかれて、ぼくは  うなずいた。

「ようい、スタート」

ぼくらは陸へむけていつせいに泳ぎだした。

強烈な午後の日差しが空のてつぺんから五つの頭を照らした。それはまるでカメラのフラッシュライトみたいに、息づきのたびにぼくの瞳を直撃した。額のあたりに一瞬の風を受けとめて、ぼくは再び水の中へすべりこんでいく。

ぼくはもう手をぬかなかつた。  手足を動かし、高々としぶきをあげて、陸へ、陸へと突進していく。

二百メートルほど来たあたりで、ぼくは早くも章くんをぬいていた。そんなペースじゃ最後までもたないから、やや速度をゆるめて体を休ませる。そのあいだも背後から章くんの迫ってくる気配はなかつた。それどころか距離はとんとん開いていく。これじゃ前回のいかさまを白状しているようなもんだけど、ぼくはそのままつつ走つた。

わざと負けるなんて、もういやだ。「がんばれよ」とはつばをかけられたとき、ぼくは章くんの目を正視できなかつた。あんなやましきはたくさんだ。<sup>②</sup>

ラスト百メートルの地点で、ぼくはスパートをかけた。うまく疲に乗って体を押しだす。ありつたけの力をこめて海をかきわける。

気がつくとき、ぼくは断トツの一位で陸の上にあった。

爽快感と、同じくらいの脱力感。

砂浜で呼吸を整えていると、数十秒遅れでゴールした章くんが疲れた足どりで歩みよつてきた。  右手をさしだしたので、反射的にぼくも右手を出すと、その手をバシヤリとやられ、おまけにはおをつねられた。

「いて」

ぼくが顔をしかめると、章くんは愉快そうにからからと笑い、そのまま別荘へ引きあげていった。

ぼくはその場にくたりこみ、大の字になってまぶたを閉じた。

潮と魚とこんぶのにおい。

大きく息を吸いこむと、胸がつまって、苦しくなった。

章くんにつねられたほおがじんじんしていた。

どれくらいそのまま寝ころんでいただろう。体じゅうに張りついた水滴が乾ききつたころ、死体みたいにしっとしていたぼくを、だれかが親切に埋めはじめた。ひざのあたりにひやつとした感觸。見ると、じやがまるがせつせと砂をかけている。

「ついに勝つたね」

目が合うと、じやがまるは言った。

「うん」

ぼくがうなずくと、じやがまるは急に声を落として<sup>③</sup>

「でも、ぼくはもう一生、恭くんや章くんには勝てないんだ」

その思いつめたような口ぶりに、ぼくはあわてて言いかえた。

「いや……、でもさ、じゃがまる」

ぼくは必死で言葉を探した。

「そりゃあ、ぼくらの競泳はこれで最後かもしれないけど、でもきつとそのうち、ぼくや章くんよりずっと速いやつが、じゃがまるの前に現れるよ。じゃがまるがそいつに勝ったら、それはさ、ぼくや章くんにも勝ったってことだろ？ そしたら手紙でも書いて知らせてくれよ」

「うん。それはいいかもね」

じゃがまるは大まじめにならずいた。

「でも、何年かかるかなあ」

「すくだよ、じゃがまるなら。だってぼくがじゃがまるくらのころはさ、泳ぐどころか、海がこわくて近づけなかつたんだから」

「恭くんが？」

「うん。なのに章くんってば、ぼくの手をがしとつかんで、ぐいぐい引っぱって、水の中に放りこむんだ。もう、悪魔かと思つたよ。ぎやーぎやー泣きながらバタバタやつて、必死で陸に逃げようとして……。でもさ、そうこうしているうちにちよつとずつ、ちよつとずつ、泳げるようになってつたんだ」

④ しゃべりながら、ぼくは再びまぶたをおろしていった。

波打ち際でナスと智明がじゃがまるを呼んでいる。何かめずらしい貝殻を見つけたらしい。

じゃがまるは一目散に駆けていき、ぼくは右手をそうつと動かして、章くんにつねられたほおに当てた。

まだ、じんじんしていた。

⑤ どうやら消えそうもない痛みだった。

(森絵都「子供は眠る」より)

問一 A ～ E にあてはまる言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア がむしやりに      イ ぶらぶら      ウ すうつと      エ こくと      オ びくと

問二 本文中から次の一文が抜けている。この一文が入る直前の十字を抜き出せ。

やせつぼちの後ろ姿が、歴気楼のむこうにかすんでいく。

問三 ——線部①「章くんはぼくだけを見つめて、言つたんだ」とあるが、章くんが「ぼくだけを見つめて」言つた理由の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 少し反抗的な態度をとる「ぼく」に対して特に強い敵意を抱いているということを伝えるため。
- イ ニラ炒めにソースをかけたのは「ぼく」であることはわかっているということを伝えるため。
- ウ 今までの勝負で「ぼく」が本気で泳いでいなかったことはわかっているということを伝えるため。
- エ 自分が別荘に来るのが今年で最後になる原因は「ぼく」にあるのだということを伝えるため。

問四 ——線部②「やましき」とあるが、これとはほぼ同じ意味の言葉を本文中から五字で抜き出せ。

問五 X にあてはまるものを次から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 一位でゴールした
- イ 最後の競泳を終えた
- ウ 章くんに勝った
- エ 力を出しきつた

問六 ——線部③「じやがまるは急に声を落として」とあるが、このときの「じやがまる」の気持ちの説明として最も適

当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 優しくしてくれた章くんが、最後の真剣勝負に負けてしまったことが信じられない。
- イ 勝負に勝ってしまったために、章くんに強くつねられた「ぼく」がかわいそうだ。
- ウ 「ぼく」が寝ているうちに、砂で埋めようと思ったのに気付かれてしまって残念だ。
- エ いつか自分も一位になりたいと思っていたが、そのチャンスがなくなってしまうと悲しい。

問七 i、ivにあてはまる言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えよ。

- ア 「ほらね」
- イ 「だって、もうこんなふうにみんなで泳ぐことなんてないでしょ」
- ウ 「うーん」
- エ 「なんでだよ、じやがまる。そんなことないよ」

問八 ——線部④「しゃべりながら、ぼくは再びまぶたをおろしていった」とあるが、その理由の説明として最も適当な

ものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 章くんとの思い出にひたるため。
- イ 一生懸命に泳いだので疲れて眠くなったため。
- ウ 勝負に勝った喜びをずっとかみしめるため。
- エ 砂が目に入らないようにするため。

問九 ——線部⑤「どうぶん消えそうもない痛みだった」とあるが、「痛み」が「どうぶん消えそうもない」理由の説明と

して最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 章くんへのわだかまりは、相当根深いと思ったから。
- イ この夏の思い出は、いつまでも消えずに残るから。
- ウ つねってきた章くんへの恨みは、しばらく残るから。
- エ ただでさえ日焼けで痛い上に、強くつねられたから。

## 2022年度 数学 【問題・解答用紙】(2の1)

1 次の計算をせよ。

(1)  $3x^3y \times 4x^2y^2 =$

(2)  $(6x^3y)^2 =$

(3)  $(-2abx^2)^2(-a^2b)^3 =$

2  $A = 2x^2 - 5x + 1$ ,  $B = -x^2 - 5x + 4$ ,  $C = 3x^2 + x + 2$  のとき, 次の計算をせよ。

(1)  $A + B + C =$

(2)  $A - B - C =$

(3)  $2A - (3B - C) =$

3 次の式を展開せよ。

(1)  $(x+3)(x+4) =$

(2)  $(5x+2)(3x-7) =$

(3)  $(a+b-3c)^2 =$

(4)  $(a+b-2c)(a-b+2c) =$

4 次の式を因数分解せよ。

(1)  $x^2 - 16x + 64 =$

(2)  $x^2 + 4x - 21 =$

(3)  $2x^2 + 7x + 6 =$

(4)  $a^2b - a^2 - b + 1 =$

(5)  $a^2 - (3b+1)a + (b-2)(2b+3) =$

5 次の計算をせよ。

(1)  $\frac{\sqrt{48}}{\sqrt{6}} =$

(2)  $\sqrt{0.0025} =$

(3)  $(\sqrt{7} - \sqrt{2})^2 =$

(4)  $\frac{2}{\sqrt{5} - \sqrt{3}} =$



## 2022年度 数学 【問題・解答用紙】(2の2)

6 次の1次不等式を解け。

(1)  $-2x - 3 > 9$

答 \_\_\_\_\_

(2)  $\sqrt{3x-1} \leq 14$

答 \_\_\_\_\_

7 次の連立不等式を解け。

(1) 
$$\begin{cases} 1 \leq 7 - x \\ x + 2 > 4 \end{cases}$$

答 \_\_\_\_\_

(2) 
$$\begin{cases} \frac{x-1}{7} < \frac{2x+3}{4} \\ 5(3x+1) < x-9 \end{cases}$$

答 \_\_\_\_\_

8 次の2次方程式を解け。

(1)  $x^2 - 5x + 6 = 0$

答 \_\_\_\_\_

(2)  $4x^2 + 4x - 3 = 0$

答 \_\_\_\_\_

(3)  $2x^2 - 4x + 1 = 0$

答 \_\_\_\_\_

9 次の集合の要素をすべて書き並べよ。

(1)  $\{ n | n \text{は} 27 \text{の正の約数} \}$

答 { \_\_\_\_\_ }

(2)  $\{ n^2 | -3 \leq n < 2, n \text{は整数} \}$

答 { \_\_\_\_\_ }

10  $a, b$  を実数とするとき、次の命題は真か偽か。あてはまる方を○で囲め。

(1) 「 $ab=0$ 」  $\Rightarrow$  「 $a^2 + b^2 = 0$ 」

答 真 偽

(2) 「 $a+b < 2$ 」  $\Rightarrow$  「 $a < 1$  または  $b < 1$ 」

答 真 偽